

2024 年度 個人研究実績・成果報告書

2025 年 04 月 21 日

所属	基盤教育機構	職名	助教	氏 名	吉田 剣
研究課題	健康の観点からの依存症行動に関する経済分析				
研究キーワード	健康, 依存症, 最適化		当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した	
関連するSDGs項目	3. すべての人に健康と福祉を	該当なし		該当なし	該当なし

1. 研究成果の概要

依存症とは、有害な結果がもたらされるにもかかわらず、ある物質の使用をコントロールできない複雑な状態のことである。一般的には、薬物、アルコール、喫煙、ギャンブルと関連しているが、スマートフォンを含むデジタルメディアの過剰使用や強迫的な買い物など、いくつかの行動が依存症に分類される。依存症は、その依存症に陥った本人だけでなく、社会にも大きな影響を与える(Krauth et al., 2002, Sut et al., 2016, Tannous et al., 2021)。日本の厚生労働省は 2016 年に 12 万人の患者がアルコール依存症であったと発表した。57 万人が潜在的にアルコール依存症であるとも予測している。また、病的ギャンブラーは 3,200 人だが、潜在的ギャンブル依存症は 70 万人と予測されている。

初期段階（1980 年頃）の経済調査における依存症の対象は、主に違法薬物使用であった。その目的は、これらの薬物の使用を止めることであった。しかし最近では、表面的には一般消費財のように見えるものが、依存症財であることが証明されている。また、依存症を問題にしているのは健康への影響であるにもかかわらず、健康を考慮した分析はなされていない。

本研究の目的は、依存症財が健康にどのような影響を与えるのか、なぜ中毒が起こるのかを、シンプルな経済モデルによって明らかにすることである。

依存に陥る個人の財消費の推移を明らかにし、それに対するいくつかのトリートメントの有用性を経済学的に証明することに成功した。これらの結果を 2025 年内に論文へまとめる予定である。

2. 著書・論文・学会発表等

(できるだけご記入ください。査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載)

【論文（査読あり）】

特になし

【著書・論文（査読なし）】

特になし

【学会発表等】

吉田剣, 教員の服装と教育効果, 海の視点からの研究会, 一般社団法人洋上総合研究所, 2025 年 03 月。(招待あり)

3. 主な経費

研究及び講演用の電子機器や学会出張費に用いた。

4. その他の特筆すべき事項（表彰，研究資金の受入状況等）

（本文は2ページ以内にまとめること）